
神を喰らう少年と罪を犯した少女達

干蘇

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

神を喰らう少年と罪を犯した少女達

【Nコード】

N8443Y

【作者名】

干蘇

【あらすじ】

僅か十歳でゴッドイーターになった少年カナギはアラガミとの戦闘中不注意により命を落としてしまった。しかしこの出来事により彼の運命は大きく変わる事となった。

プロローグ（前書き）

初めて小説を書きました。駄文＋更新が遅いですがよろしく願います。

プロローグ

ある日突如出現した謎の細胞『オラクル細胞』により誕生した生物『アラガミ』が世界中に現れた。通常兵器は効かず街も人も喰われ人類は窮地に陥った。

しかし人類には唯一対抗できる最後の希望があった。とある企業が開発した同じオラクル細胞によって作られた武器『神機』である。この企業は『フェンリル』と呼ばれ世界中に持つこととなる。フェンリルに所属する神機を使う者『神機使い』によって人類は抵抗し続けてきた。

神機使いの活躍を見た人々は彼らをこう呼ぶ。
神を喰らう者『ゴッドイーター』と。

この物語は僅か十歳でゴッドイーターになった少年カナギ・ハーヴィスの物語である。

第一話 選択（前書き）

ちょっとおかしい所がありますが本編をどうぞ。

第一話 選択

ピピピピッピピピッピッカチッ

眠たそうな目で少年は目覚ましのスイッチを切った。

「ん…もう朝なんだ」

少年はベッドから上体を起こし大きく体を伸ばした。

少年の名はカナギ・ハーヴィス。僅か十歳でゴッドイーターになった珍しい少年である。

神機はアラガミに唯一対抗できるものだが問題点が二つある。

一つは適合するものとしもないものがある事もう一つは加齢するたびに適合率が減る事

これによりは主に十二歳から十八歳に適合する者が多いが彼の場合適合率が異常な数値を叩きだしたため急遽適合試験を行ったのだ。

「さて今日も頑張らなきゃ」

カナギはそう呟き着替えたのだが…

「むー」

右腕の手首の辺りに大きめの腕輪が寝巻きが引っ掛かっていた。

「これなんとかないのかなあ…」

カナギはぶつぶつ言いながら寝巻子を引っ張った。

なら腕輪を外せばいいじゃん、と思われるがそれは出来ないのでは

る。

彼が着けている腕輪は正式名称『P53アームドインプラント』ゴッドイーターにとつては必要不可欠な装備品でこれにより神機を使うことができる。しかしある欠点がある。肉体と融合しているため外せないのだ。これにより多くのゴッドイーターが着替えるのに苦勞しているため腕輪の小型化を待ち望んでいる者が多いのだ。

「あーやつと脱げた」

寝巻きと（ある意味）死闘を繰り広げ約十分後ようやく脱ぐことができた

「はあ…やつぱり脱ぎづらいなあこれ」

寝巻きをたたみクローゼットから服を取り出し着替えだした。

「よし！これで大丈夫かな？さて行くか」

着替え終えた彼は部屋を出た。

エレベーターに乗りエントランスに降りたカナギは受付に立っている女性に近寄った。

「おはようございます」

カナギの声に気付き女性、竹田ヒバリが視線を向けた。

「おはようございます。カナギ君、支部長がお呼びです」

「支部長…から？」

「はい、至急支部長室に来てくれ、との事です。」

「わかりました。」

カナギはエレベーターに引き返し支部長室へ向かった。

支部長室前に着いたカナギは扉をノックした。

「失礼します」

中に入ると一人の男性が立っていた。

彼の名はヨハネス・フォン・シックザール、フェンリル極東支部の支部長である。

「やあ朝早く呼び出してすまない。本当ならば昨日言うはずだったのだがどうやら君は休暇を取っていたようだから朝早く呼ばしてもらったよ」

「いえ構いません…ところでご用件とは」

「そうだったな、まずは君や先人達のおかげで計画は最終段階に向かいつつある。そのお礼を言いたくてね」

「おれだなんて…僕はあまりお力になっているとは…」

カナギは弱々しく言った。

「そんな事はない。君は充分力になっているもつと自分に自信を持

ちたまえ」

その言葉にカナギの表情が明るくなった。

「はっ、はいありがとうございます。」

「うむ、さて次はその計画についてだ」

「計画：エイジス計画の事ですネ」

『エイジス計画』それはシックザール支部長が発案したプロジェクト。旧日本海付近に人工島『エイジス島』を建設し世界中の生物をアラガミから救おう、という計画である。

「いや、エイジス計画の事ではない。アーク計画についてだ」

シックザール支部長がキツパリと言うとカナギは戸惑った。

「えっ！？あ、あのアーク計画って何ですか？」

「アーク計画：それは真の救済方法。もしこれが成功すればアラガミを完全に消滅させる事ができる」

「凄いいじゃないですか！」

シックザール支部長の説明を聞きカナギは驚きを隠せなかった。なぜならアラガミは倒しても倒してもオラクル細胞が雲散し、また別のアラガミに構成するのだから。

しかしある疑問点が浮かんだ。

「あれ？でもそれなら何故アーク計画を世界中に公表しないのですか？エイジス計画よりもいいじゃないですか？」

カナギは疑問をシックザール支部長にぶつけた。

「アーク計画は生き残れる人数が限られているのていのだよ」

「えっ…？」

呆然とするカナギを置いてシックザール支部長は説明を続けた。

「生き残れる人数は千人。この千人は真に優秀な人間を残すべきだと思わないかね？」

「ちょ、ちょっと待ってください！そ、それじゃあ他の人達はどうなるのですか！？」

シックザール支部長の説明に困惑したカナギだったが、慌てて質問をした。

「生き残る千人以外は全て消滅する。アラガミと共にな」

「そ、そんな…」

シックザール支部長の答えにカナギはショックを隠しきれなかった。

「さて単刀直入に聞こう。君はどうする」

「え…?」

「他人を犠牲にして生き残るか、それとも共に滅びるのか。君はどちらを選ぶかね」

「……………」

シックザール支部長の質問にカナギは黙り込んでしまった。

「決められないかね。ならば君に考える猶予を与えよう。期限はま
だある。じっくり考えて決断したまえ。…以上だ、下がったまえ」

「…はい、失礼します」

カナギが部屋を出た後シックザール支部長は通信機を取り出した。

「私だ…例の件だが…そうだ後は頼んだよ」

小声で会話し通信を切り誰もいない部屋の中で呟いた。

「すまないが犠牲になってもらうよカナギ君」

第一話 選択（後書き）

小説ってとても難しいですね。

一話書くのにこんなに苦労するなんて…

ちなみに誤字脱字、○○よりも××の方がいいんじゃない？等のアドバイスがあればどうぞ。

もちろん、普通の感想でも構いません。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8443y/>

神を喰らう少年と罪を犯した少女達

2011年11月27日08時52分発行